

学ぶ力向上にかかわる課題

○全体

「活用」の力は定着しているが「知識」に弱さが見られる。

○国語科

- ・自分の考えを自分なりに書く力はある。目的や場に応じて、資料をもとに書く力が弱い。
- ・話の展開や内容を読み解く読解力に弱さが見られる。
- ・今回の調査では設問がなかったが、日常の学習からローマ字の読み書きの定着に課題がみられる。

○算数科

「活用」の力は定着しているが「知識」に弱さが見られる。

- ・図形に関して示された条件を基に考える力が弱い。
- ・根拠を示しながら、図や式、グラフなどを使って、自分の考えをわかりやすく伝える力が弱い。

○理科

- ・実験を通して体験的学習を深める必要がある。

○基本的な生活習慣・学習習慣

- ・基本的な生活習慣や学習習慣に個人差が見られる。
- ・困難な状況の中でも頑張れる子が見られる。規範意識も少しずつ高まってきているが、個人差が見られる。

学ぶ力向上へのアプローチ

『学ぶ意欲・習慣』からのアプローチ

- ・協働的な学び（共に学び、共に高め合う）を通して課題解決の筋道を深く追求する児童の育成を引き続き行う。
- ・「話し手の顔を見て考えながら話を聴く姿勢」を習慣化させる。（目と耳と心で聴く）
- ・ねらいに通じる「めあて」を提示することで見通しをもって授業に参加させるとともに、ふり返りをしっかりさせ、自己評価と新たな課題の設定へとつなげる。（授業のPDCAサイクル化）
- ・一人ひとりが活躍でき、満足感、成就感を感じることができる授業を行う。
- ・基本的な学習規律と学習の自立を再確認し、全職員で徹底する。
- ・提示方法を工夫（タブレットなどICTの利用等）し、学習への興味関心を育てる。

『基礎的・基本的な知識・技能』（リテラシー）からのアプローチ

- ・低学年から高学年への系統性を大切にする。物語、説明文、新聞などを読むことで深い読みの力をつける。
- ・短時間学習「エネルギータイム（火・木）」では、基礎学力をつけていく。
- ・字数制限を設けたり、使用するキーワードを指定したりするなど、条件をつけて文章を書かせる活動を積み重ね、目的や場に応じた文章を書く力を伸ばす。
- ・図や式、グラフなどを使い、根拠を明らかにしながら自分の考えを話したり、書いたりする活動を意識的に取り入れ、わかりやすく説明する力を伸ばす。
- ・学習した漢字は、書く文章の中で必ず使うよう指導し、身につけさせる。
- ・算数科の最初の5分間に、計算プリントなどを活用した復習タイムの取組を継続する。
- ・算数科では、必要に応じて習熟度別による復習を行う。
- ・全学年で、工夫を凝らしたノート指導を行い、学習内容の理解に繋げると共に書く力・考える力を伸ばしていく。
- ・児童の特性に応じた個別の支援や合理的配慮を行う。

『学んだことを基に課題を解決したり、生活に生かしたりする力』（コンピテンシー）からのアプローチ

- ・既習内容や生活経験を基にして、みんなで学習を練り上げていく学び合いの学習を進める。
- ・「特別の教科 道徳」の学習を通して考える力を伸ばす。
- ・本時の学びを確かめるために、自分の学びを自分の言葉で話したり書いたりする「振り返り」を行う。
- ・特別活動など教科学習以外においても既習内容が生かせるよう、子ども自ら考え自主的に行動する場を設定する。

『学びを支える確かな生活（基本的な生活習慣・基本的自尊感情・社会的自尊感情・社会規範意識）』からのアプローチ

- ・家庭との連携を強化し、発達段階に応じた家庭学習の定着を図る。また、規則正しい生活が今後も続くように保護者への啓発を継続する。ホームページ等による発信に努める。
- ・学習や生活でのふり返りを通し、子ども自らが自分の成長を感じ取る取組を進める。
- ・ありのままの自分自身が大切と思える基本的自尊感情を育む。
- ・様々な方面から積極的に子どもの良い行動を見つけ、認め、褒めることで社会的自尊感情を高める。
- ・児童同士が互いの良さを感じ、認め合う取組を進める。

学ぶ力向上策の検証

- ・全国学力学習状況調査の結果を分析し普段の実践に生かす。毎時間の授業における児童の自己評価等を授業改善に生かす。
- ・OJT推進教員を中心に「主体的、対話的で深い学び」のための研修を日々の実践の中で実施する。
- ・「学校評価」（自己評価、学校関係者評価）を検証し活用する。
- ・「学校評価」や全国学力学習状況調査の結果を生かし、向上策を見直す。（9～10月改訂）

